

### (3) Risbergskaskolan リスベスカ高校

#### 1) 概要

スウェーデンでは、ろうや難聴のある生徒が進学できる後期中等教育学校（高校）は、このリスベスカを含む3つの高校だけでそれらはすべてこのオレブロの街中にある。



全国にある5つのろう学校（図9）の卒業生のうちろうや難聴のコースのある高校への進学を希望する生徒はここオレブロに集まってくる。ろうの生徒のための高校（RGD: Swedish National Upper Secondary School for Deaf）、難聴生徒のための高校（RGH: Swedish National Upper Secondary School for Hard of Hearing）の二つの組織が国立のものとして設置されており、ろう生徒の学校では手話で授業が行われ、難聴生徒の学校では補聴システムを活用しながら音声スウェーデン語による授業が行われる。これら2つの組織が3つの学校に設置されていて、それぞれは各学校の1つのセクションを形成しており、その各セクションごとに部門長（校長）、学習アドバイザー、カウンセラー、看護師、特殊教育教師、教師、アシスタントが配置されている。通常は3年課程であるが、このセクションでは4年課程が多い。スウェーデンにある5つのろう学校（小学・中学）を卒業する生徒の約半数はここオレブロに移住して高校へ進学するという。ここには種々のろう関係の団体が提供するサービスがあつて、住居や食費、生活費にいたるまでほとんどが支給されるという。高校は2つの種類に分類され、一つは学科学習を中心とする理論学校であり、もう一つは職業教育を重視する職業学校である。

#### 2) 障害学生支援と高大連携について

リスベスカ高校は、約1200名の生徒と180名の教職員からなる高等学校（Upper secondary school）である。理論教育を中心とするカリキュラムを用意した学校で、大学進学希望者が多い。コースの一つにろう・難聴者のためのコースがあり、20数名（うち8名のろう者）の教員を擁している。手話で行われる授業が大部分であるが、難聴学生は音声言語による授業も受けることができる。また、図10のようにそのためのFM補聴器、各生徒机に設置されたマイク、ループなどの設備を備えた部屋が用意されている。大学と

**NATIONAL UPPER SECONDARY SCHOOL  
FOR THE DEAF AND HEARING IMPAIRED  
ÖREBRO, SWEDEN**

1967  
RGD

1984  
RGH



**5 SPECIAL SCHOOLS FOR THE DEAF:**

Härnösand - Kristinaskolan

Stockholm - Manillaskolan

Örebro - Birgittaskolan

Vänersborg - Vänerskolan

Lund - Östervångskolan

Hearing impaired students come from their home municipality schools or special schools

***Economy***

Agreement between the Swedish State and the Municipality of Örebro concerning

- Education
- Accommodation
- 18 Travels back home (every fortnight)

図9. スウェーデンのろう学校の分布

同様に試験において特別な配慮を必要する場合に使用する個別ブースや、手話学習に備えて練習したりや手話による記録を作成するためのブース（図 11）、盲ろうの学生に対して必要な機器類（図 12）を活用して授業を行っている。通常の学生のコースとの交流はあるが、現在までは行事程度に限られている。全教職員のうち 78%の人が手話で生徒と対話が可能とのことである。

高大連携においては、特別なプログラムを持っているわけではないが、進学希望者が大学の授業を見学したり、教師と一緒に大学のコーディネーターを訪ねてアドバイスをもらったりなどしている。校内に配置されているカウンセラーはキャリア支援や学習支援についてもかかわり、大学との連続において生じる問題において支持的な働きをしている。



図 10. マイク設置の教室



図 11. カメラ付きブース



図 12. 盲ろう生徒の机